

(一財) 日本遺族会青年部主催

フィリピン戦跡慰霊巡拝参加感想文

祖父の眠る

フィリピンを訪ねて

澤村 幸子

私は今年1月9日より13日まで、日本遺族会青年部主催、フィリピン戦跡慰霊巡拝団に参加しました。フィリピンの慰霊巡拝は初めてのことでした。私の祖父はフィリピンのマリキナという場所で戦死したと聞いています。何年か前より慰霊に行きたいと思っていました。が、なかなか思うだけで進まず、今回、フィリピンに行くことが実現し、うれしく思いました。

一日目は靖国神社内の靖国会館で結団式を行い、日本遺族会より現地への追悼の参考という形で、戦没地の部隊行動の概要などを戦史等を参考にしたプリントも用意して下さり、驚くと共に有り難かったです。それにより、祖父がいつ、どこに上陸し、どの部隊で戦闘に参加したのかを知ることもできました。その後、結成されたA・B班で靖国神社に正式参拝をし、成田空港から日本を出発しました。

現地では、私はA班として、マニラ周辺4か所で慰霊祭を行いました。まず最初に、リサール公園で手を合わせました。2日目は、マニラ市内とボソボソで、3日目はイポとクラーク

で、4日目はB班と一緒に、カリラヤで全戦没者追悼式を行いました。

慰霊祭では、自分たちで慰霊祭の準備をし、祖父や英霊の方々に日本から持参した物や、写真を台いっぱいにお供えし、各自が用意していた追悼文を読み、追悼の気持ちをお届けしました。私はボソボソという地で慰霊祭をして頂きました。目の前には、濃い緑の山々が広がっていました。私は祖父の近くまで来られた事、祖父がこんなに厳しい中で国を、家族を守ろうと戦ったことを思うと、自然に涙がこぼれました。追悼文を読むときにはもう、胸がいっぱいで、書いた手紙も字がゆがみ、声にならないところもあり、「おじいちゃんに届いたかなあ。」と思いました。「おじいちゃん、家族の元に帰ってきたかったよね。辛かったよね。苦しかったよね。」と伝えました。追悼式の最後に、ふるさとと、里の秋を歌いました。涙が止まらなかったです。

その帰りに、思いがけないことが起こりました。祖父の最後の地、マリキナは慰霊祭の地からは離れていましたが、帰路の途中、水落会長様のご配慮で、マリキナの川のほとりにバスを停めて頂くことが出来たのです。バスから降りて胸がどきどきとしたことを思っています。ガイドのヒデコさんが、「おじいさまもこのマリキナ川を見たと思うよ!」と声をかけて下さり、目頭が熱くなり、胸が震えました。北方の山の方に手を合わせ、「おじいちゃん、孫の幸子です。やっと来たよ!」と心の中で言いました。本当に、この

時のご配慮に強く感謝いたします。

4日目のカリラヤでの全戦没者追悼式は厳かに挙行され、水落会長、大使館職員様、副団長の方々の追悼の言葉にこの4日間のことを重ねながら胸を熱くしました。

この、日本遺族会青年部フィリピン戦跡慰霊巡拝団に参加させてもらって本当に良かったです。戦いのこと、現地でのこと、日本に残された祖母や母のこと、これから私たちには何が出るのだろうかということ、色々なこと知れたこと、これからの私の課題、色々なことを考える時間となりました。

また、ガイドのヒデコさんのお話や、日本遺族会の方が色々なことを調べて下さったこと、私は本当に知らないことばかりだなということを感じ知らされました。その知らない分これから勉強していかなくてはと思いました。

今回ご一緒した皆様は、同じ思いのもと集まっていますので、色々とお話を聞くことが出来ました。それぞれの表現は違っても、強く平和を望むこと、戦死した祖父や叔父、曾祖父が大好きであることは、皆に共通していることであると感じました。大好きな人のことを戦争などで失うことや傷つくことが二度とないように、忘れないようにしていかなくてはと思います。

日本遺族会のスタッフの皆様、添乗員様、ご尽力いただいたことに感謝しています。実りの多い、慰霊巡拝となりました。この体験で得たことをこの様な形で皆様にお伝えする機会に感

謝しています。

祖父への追悼文でも言いましたが、「フィリピンにまた必ず来ます。」という約束を近いうちに母と叶えたいと思います。

最後に、タール火山の噴火というハプニングも起きました。ニュースで知った私の長男が、「おじいちゃんか、もうちよつとフィリピンにおつて。つて言いゆうがやと思う。」とメールしてきました。祖父からはひ孫になる長男です。つながって考えてくれていて、ことを嬉しく思いました。ありがとうございます。

令和2年6月寄稿